

101-216

問題文

脳塞の発症には血小板凝集反応が関与するものがある。この反応に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

1. トロンボキサンA₂ は、血管内皮細胞から放出され、血小板凝集を抑制する。
2. 損傷した血管壁内から露出したコラーゲンは、血小板凝集を抑制する。
3. 活性化された血小板どうしは、フィブリノーゲンを介して結合する。
4. プロスタグランジンI₂ は、活性化された血小板から放出され、血小板凝集を促進する。
5. ADP(アデノシン5'-リン酸)は、活性化された血小板から放出され、血小板凝集を促進する。

解答

問216 : 2問217 : 3, 5

解説

問216

選択肢 1 ～ 5 は、どれも血液サラサラにする薬です。再発抑制のための薬物としては妥当です。しかし、本患者は重篤な腎障害があると診断されています。ダビガトランのみ、主に腎臓で代謝されます。よって、正解は 2 であると考えられます。

ちなみに、添付文書によれば、クレアチンクリアランス 30 mL/min 未満の患者には投与禁忌の薬です。

問217

選択肢 1,4 ですが

血管内皮細胞から放出されるといえば NO や、PGI₂ です。これらの物質は血小板凝集を抑制します。ちなみに、TXA₂ は、血小板が産生します。血小板凝集を促進します。以上より、選択肢 1,4 は主語である「トロンボキサンA₂」と「プロスタグランジンI₂」が逆です。共に、誤りです。

選択肢 2 ですが

コラーゲンに血小板が粘着します。凝集が促進されます。凝集抑制ではありません。イメージとしては、コラーゲンは三つ編み状の直線上のタンパク質だからひっきりやすい感じです。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 は、正しい選択肢です。

フィブリノーゲンは、血小板の膜タンパク質と結合することで血小板を架橋します。

選択肢 5 は、正しい選択肢です。

以上より、正解は 3,5 です。